

広報とうやこが 200号に到達しました!!

町の広報紙「広報とうやこ」が、今号をもって200号に到達しました。

広報とうやこは、2006年3月に行われた虻田町と洞爺村の合併に合わせ、「広報とうや湖」の名称で同年4月に創刊。記念すべき第1号では、虻田・洞爺の住民10人が新町に寄せる期待などを語る特集を組みました。

町内の出来事を伝える「まちのわだい」や、新生児を紹介する「こんにちは赤ちゃん」は当時から現在も続く定番コーナー。町からのお知らせやイベント情報のほか、2008年7月に開かれた北海道洞爺湖サミットや、



広報とうや湖の創刊号



広報とうやこの2022年10月号

2010年7月の洞爺湖温泉誕生100年など歴史的な行事も取り上げながら発行を続けました。

17年度から役場内のパソコンで広報誌を制作するDTP（デスクトップ・パブリッシング）の作業体制を本格導入し、18年1月号のリニューアルで「広報とうやこ」と名称を改めて内容を刷新。読みやすさに配慮し、現在に続くデザインとなりました。

広報とうやこは、町から町民の皆さんに届ける「手紙」として、今後も様々なニュースや情報をお届けします。ぜひご愛読ください。

広報のウラ側

広報とうやこは、職員が取材から編集作業まで一貫して行います。制作の裏側を紹介します。

1. 取材

広報担当職員が町内のイベントなどに出向き、町民の声を聞き取ったり、その場の様子を撮影します。広報発行の柱となる最も重要な作業です。



3. 校正

広報以外の職員も加わり、誤字はもちろん言い回しの違和感などがないか綿密にチェック。校正用の「ゲラ」が訂正の指摘だらけになります。



2. 制作

DTP用のPCソフトを使い、取材内容を原稿に起こします。各課から寄せられた原稿も合わせ、編集用ソフトを使って記事のレイアウトを考えます。



4. 校了

印刷会社に原稿データを送信し、最終ゲラをチェックし終えたら校了。翌月の9日前後に役場に納品され、翌日以降に自治会を通じて皆さんのお手元に届きます。



必報とげやこで振り返る

「あのころ」の洞爺湖町

▼29号(2008年8月)

町にとって歴史的な出来事となった北海道洞爺湖サミットを特集。各国の要人やファーストレディーが町民と交流する様子を捉えた写真を多数掲載し、会場の雰囲気やミット関連の記事を見開きで掲載しており、当時の町の盛り上がりや伝わってきます。



▼53号(2010年8月)



洞爺湖温泉誕生100年記念イベントの写真特集を掲載。町のヒーロー「トウヤマ」(とぎじん)が共演した貴重(?)な一枚が見られます。表紙は、湖畔で行われたマイムタイム。ギネス掲載を目指して6800人以上の参加が呼び掛けられました。

▼43号(2009年10月)

洞爺湖有珠山ジオパークの世界ジオパークネットワーク加盟決定を受け、それまでの経緯や決定の反響を掲載。記事では、活火山と人が共生している世界でも例がない地域と紹介されており、現在でもこの特徴を活かしたまちづくりや観光振興策が進められています。



300号を目指して
数え切れない程多くの町民の皆さんに協力していただき、広報とうやは大きな節目を迎えることができました。この場を借りて感謝申し上げます。

広報とうや湖創刊号には、広報づくりは「役場と住民をつなぐかけ橋」とする当時の担当者の一文があります。

スマートフォンの普及など情報を得る手段は創刊当時から激変しました。広報とうやが今後もかけ橋となれるよう、求められる役割を常にみつめ直しながら300号を目指していきます。(企画防災課企画・広報グループ)

広報とうやこの感想、要望、情報提供をお寄せください。

■連絡先
企画防災課企画・広報グループ
0142-74-3004
kohotokei@town.toyako.hokkaido.jp
※広報とうやは町のホームページからもご覧いただけます



▼121号(2016年4月)

洞爺湖町の誕生から10周年を迎えた3月27日、記念式典が開催。記事のメインの写真は、式典で合唱を披露した当時の小中学生約1000人です。同月をもって閉校となった洞爺高校、洞爺湖温泉中学校の卒業式の記事もあり、町の節目となった1か月の様子を伝えています。